

人、自分の分曉した子供を哺育する爲に云ふのが二十九人、父母の勤に云ふのが五人、タツタ四人の外は悉く貧乏なるが故に女郎屋に賣られて来た。故に或る間違つた人があつて、此可哀想な娼妓に向つて指を突く人間があるならば、其人は此可哀想な女を……貧乏なるが故に賣られて来た、金の爲の奴隷を、僅か一圓か二圓の端金で以て弄ぶ、貞操を金で以て蹂躪するものである云ふ事を好く考へて讀むたのであります。

**娼淫窟の原因**

更に東京に於ける娼淫窟、千二百三十八人の統計も同じ事でありませぬが、その千二百三十八人の中で五百六十人は自分の生活に困つた結果、五百七十八人は他人の誘惑の結果でありました。而して其中の七割は明かに貧乏の爲に身賣りをして居る云ふ有様であります。同じ様な統計が佛蘭西の巴黎の娼淫窟を研究した、パレルド云ふ人の書いた書物に出て居ります。是は五千八百八十三人に就て研究した結果でありますが、其中

の五割以上は經濟上の原因で極く困つた結果娼妓生活に入つたのであります。之を察へる時に私共の考へなくちやならぬ事は、今日の所謂娼妓云ふものを破産する前提として、先づ我々は或る階級の人達、自分の貞操を肉を資本としてやうく、其日々々の様子をしなくちやならぬ云ふ人を救ふ云ふ其根本の問題は、唯だ所謂道德問題ぢや濟まない。所謂宗教問題だけぢや濟まない、所謂教育主義や、お寺主義では濟まない。其根本には所謂今日の最も憂むべき所の資本主義がある、金で以て總ての女を奪ふ、極く貧乏な階級の女を、金で以て人の貞操を弄び得る云ふ資本主義があるのである。我々は此資本主義から改道しなければ幾ら婦人矯風會の様なものも百萬集つてもそれは駄目である。故に我々は此娼妓制度の破壊の爲に、先づ此資本主義を徹底的に破壊しなければならぬ。

**娼妓の契約**

況んや諸君今日の場合に於て、戀愛の自由なるものはない。戀愛の自由がないから間違つた金を以て間違つた所へ行く。私益に娼妓を種手さの契約の文書を持つて來て居ります。之は昨日神